

俳句 大津俳句会

夏燕雨切返し切り返し

井芹眞一郎

気品ある名前貰ひて薔薇咲けり

秋山 恵

庭に咲く牡丹の花がどっしりと

大塚喜久子

カーネーション持つ手の先に母の顔

佐賀 久子

金色の風の吹き来る麦の秋

岡崎 浩子

黄堇や風のきらめく阿蘇原野

森山美穂子

朴の花城跡は白き雨の中

佐澤 俊子

漢らの肌のぶつかる祭かな

中林 好子

俳句 つのはな句会

傷心の一人にくぼむ籐の椅子

柴田しのぶ

飛び火してつらつら椿 夢占い

志賀 孝子

球体のずれ始めたり黄砂降る

田上 公代

作動する防犯カメラ街五月

木庭 杏子

人の世をすべて被ひて新樹燃ゆ

上杉 波

こんなにも死者を増やして余花の風

矢嶋 道子

再会は熊本城で花見かな

水野 春子

夏星や夢を語ろうゆつくりと

梅木トキエ

春の雨吾子の涙か如何にせむ

塚本 洋子

短歌 大津短歌会

若き等は右と左の道違えどん底見えぬま
まを選びて

管野 静

帰らぬと息子夫婦の知らせありロックを
すれば不意に寂しき

豊岡ミツル

時々は軽き眠りに遊びつつひと日を送る
老の釣人

吉永 恵子

夕食と呼ばれそれぞれ見ら去りてブラン
コ三つまだゆれている

坂本 杲子

春らんまん都会のことと思いが山あいの
地につづく孤独死

鞍 岳志

枯れしかと思ひし植木芽生えたり思わず
拍手孫を呼びたり

小平 善行